

アライアンス・バーンスタイン・世界高成長株投信

(年2回決算型) / (隔月決算・予想分配金提示型) /

(毎月決算・予想分配金提示型)

愛称：グローバル・イノベーター

追加型投信／内外／株式



運用責任者が語る、AI革命はまだ初期段階—半導体の先へ広がる投資機会

概要

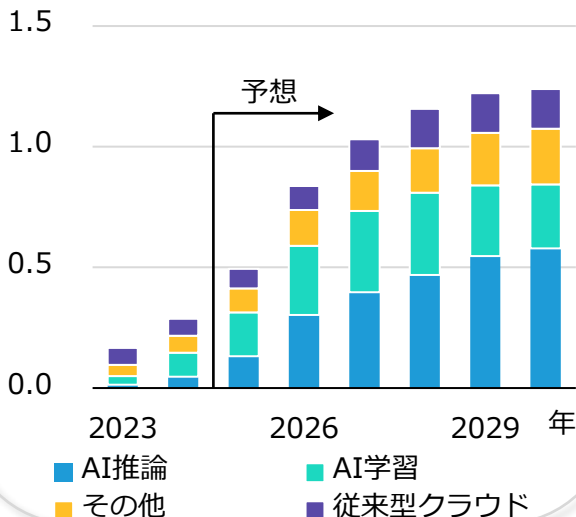
- ・ **AI革命はまだ初期段階**：AI学習からAI推論への移行が進む一方、AIはいよいよ本格的な社会実装のステージへ。2026年はAI活用元年ともいえ、半導体・電力・データセンターに投資機会が広がる
- ・ **構造的イノベーションへの分散投資**：AIを中核に、宇宙・防衛イノベーション、産業イノベーション、エネルギー転換など複数のテーマに投資



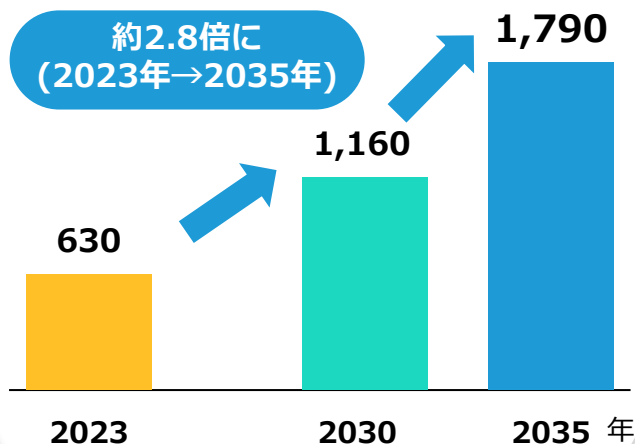
レイ・チウ (Lei Qiu) - セマティック・イノベーション株式運用 CIO (最高投資責任者)
在籍：ニューヨーク(アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー)

“AIを中心とした構造的イノベーションは、
まだ初期段階。投資機会が拡がり、長く続く”

1

AI推論需要の拡大
GPUからメモリ需要に米ハイパースケーラーの設備
投資額内訳の推移(単位：兆米ドル)*

2

拡大する宇宙
ビジネスの商機世界の宇宙経済 成長予測
(単位：10億米ドル)**

※AI推論は学習済みモデルを使って実際に回答・予測を行う工程。AI学習は大量データからAIモデルを構築する工程。

*期間：2023-2030年。2025年以降はブルームバーグの予想。 **予想は2024年4月時点。出所：ファクトセット、ブルームバーグ、McKinsey&Company、スタティスタ、アライアンス・バーンスタイン（以下、「AB」）。アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。アライアンス・バーンスタイン株式会社は、ABの日本拠点です。）

過去の実績や分析は将来の成果等を示唆・保証するものではありません。予想は今後変更される可能性があります。記載の個別の銘柄・企業については、あくまで説明のための例示であり、いかなる個別銘柄の売買等を推奨するものではありません。また組入れを示唆・保証するものではありません。

レイ・チウが語る注目テーマと見通し

AIはインターネット以来の大変革になるとみているが、革命はまだ初期段階



1 AIの進化と インフラ拡張



AI学習からAI推論へ。
半導体・メモリ・製造装置・データセンター等、
バリューチェーン全体へ投資機会が拡大。

2 電力・インフラ エネルギー



電力需要の急増と送電網の容量不足。
発電・送電から効率化ソリューションまで長期需要が続く。

3 宇宙・防衛



宇宙は地政学的に重要性が増大。スペースX※が
開拓する宇宙経済の成長余地は大きい。

※スペースXの正式名称はスペース・エクスプロレーション・テクノロジーズ

当ファンドでは**AIの進化**に伴う成長機会の変化を捉えながら、ポートフォリオを機動的に見直しています。具体的には、エヌビディアなどのGPU関連銘柄のウェイトを引下げ、CPUやメモリ半導体、光通信技術を手掛けるネットワーク関連企業への投資を拡大する局面もありました。また、メモリ半導体メーカーの設備投資が増加していることから、その恩恵を受けるラムリサーチやアプライド・マテリアルズ等の半導体製造装置メーカーへのウェイトを上げています。**電力・インフラ・エネルギー分野**では、AIデータセンターの拡大に伴う電力需要の増加を背景に、ブルームエナジーなどの次世代発電技術を有する企業や、発電・送配電関連企業への投資機会を捉えています。

宇宙・防衛分野では、宇宙経済の中核を担うスペースXや、航空・宇宙向け特殊金属メーカーのカーペンター・テクノロジーなど、中長期の構造的成長が見込まれる企業についても選別的に組み入れを進めています。

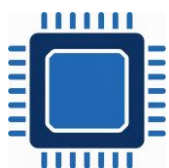
足元においては、半導体を中心としたAI関連企業を中核としつつ、電力インフラや宇宙・防衛、そしてAI活用により恩恵が見込まれる幅広い成長機会を捉えながら、機動的な運用を継続していく方針です。



画像はイメージです
出所：AB

Q&A

1 半導体銘柄に関する見通し。過熱感はないのか？



- ・半導体セクターには引き続き強気だが、銘柄選別を行いながら機動的にポジションを変更
- ・AI投資の重点が学習(Training)から推論(Inference)へ移行する中、CPU・メモリーメーカーが恩恵

メモリー分野

大規模データの保存需要の拡大を背景にDRAMメーカーよりも、NANDメーカーに強気な見方

半導体製造装置

- ・メモリー/ファウンドリーの設備投資増加
- ・半導体製造装置メーカーも有望



2 主要AI企業の競争、勝者は誰か？

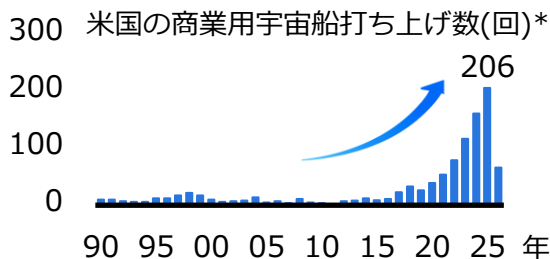


- ・現時点で誰が勝者かを判断するのは時期尚早とみる
- ・現在から1年前はChatGPT(OpenAI)の人气が高く、半年前はGoogleのGeminiへの評価が急上昇するなど、その時々で変わる
- ・中国のAIツールの進化も軽視すべきでなく、特定の企業やその関連企業に集中投資するのは危うい。幅広い投資機会を捉えるべき

3 スペースXの見通しについて



- ・強気の見方を維持
- 市場は依然としてスペースXの潜在能力を過小評価しているとみる



Starlink※

潜在市場規模が大きい

※スペースXが提供する
衛星インターネット通信サービス

ロケット事業

現時点では赤字だが、開発・製造・コスト管理の競争力は高い

AI関連事業

現時点での評価は高くないが、ポテンシャルは大きい

- ・宇宙は地政学的に重要度が高まり、各国政府の投資拡大が追い風に
- ・中期的には、イーロン・マスク氏がスペースXとテスラを統合する可能性があるともみている

上記は2026年6月末時点の運用者の見解であり、市場環境の変化等により今後変更される場合があります。また、将来の成果等を示唆・保証するものではありません。*期間：1990年-2026年。ただし2026年は4月末時点の暫定値。

出所：スタティスタ、米国運輸省、AB

過去の実績や分析は将来の成果等を示唆・保証するものではありません。予想は今後変更される可能性があります。記載の個別の銘柄・企業については、あくまで説明のための例示であり、いかなる個別銘柄の売買等を推奨するものではありません。また組入れを示唆・保証するものではありません。

Q&A(続き)

4 金利上昇はリスク要因か？



- ・生活必需品などがアウトパフォームする極端なリスクオフ環境はリスク要因だが、現時点においてその可能性は低いとみる
- ・利上げ自体は大きなリスクではない。利上げが実施されても、2022年のような急激な引き締めではなく緩やかなペースで行われるとみる
- ・加えて、市場は利上げを一定程度織り込み済みで、サプライズは限定的
- ・ポートフォリオのリスク管理において、継続的なストレステスト（想定するリスクシナリオでのポートフォリオへの影響をモニタリング）を実施
- ・現在のポートフォリオは高バリュエーション銘柄の比率がそこまで高くはなく、金利上昇局面におけるリスクは比較的抑制されているとみる

5 SaaS、ソフトウェア銘柄の見通し



- ・企業向けソフトウェアは、高度なAIエージェント等から代替されるリスクが高く、慎重な見方を継続
- ・SaaS企業は年初来で株価が大きく下落したが、依然として市場全体と比べてバリュエーションが高く、割安とはいえない

ソフトウェアの中で前向きに評価する分野

サイバーセキュリティ企業

AIの高度化はサイバー攻撃を一層巧妙化させ、防御側の需要も拡大している。

もっとも、需要拡大が全ての企業の成長に直結するわけではなく、独自技術や高い競争優位を持つ企業を選別して投資する姿勢が重要とみている

データ分析企業

AI時代の進展に伴い、データの重要性が一段と高まっており、多様なデータを統合・分析する企業に成長機会が広がる

上記は2026年6月末時点の運用者の見解であり、市場環境の変化等により今後変更される場合があります。また、将来の成果等を示唆・保証するものではありません。出所：AB

過去の実績や分析は将来の成果等を示唆・保証するものではありません。予想は今後変更される可能性があります。記載の個別の銘柄・企業については、あくまで説明のための例示であり、いかなる個別銘柄の売買等を推奨するものではありません。また組入れを示唆・保証するものではありません。

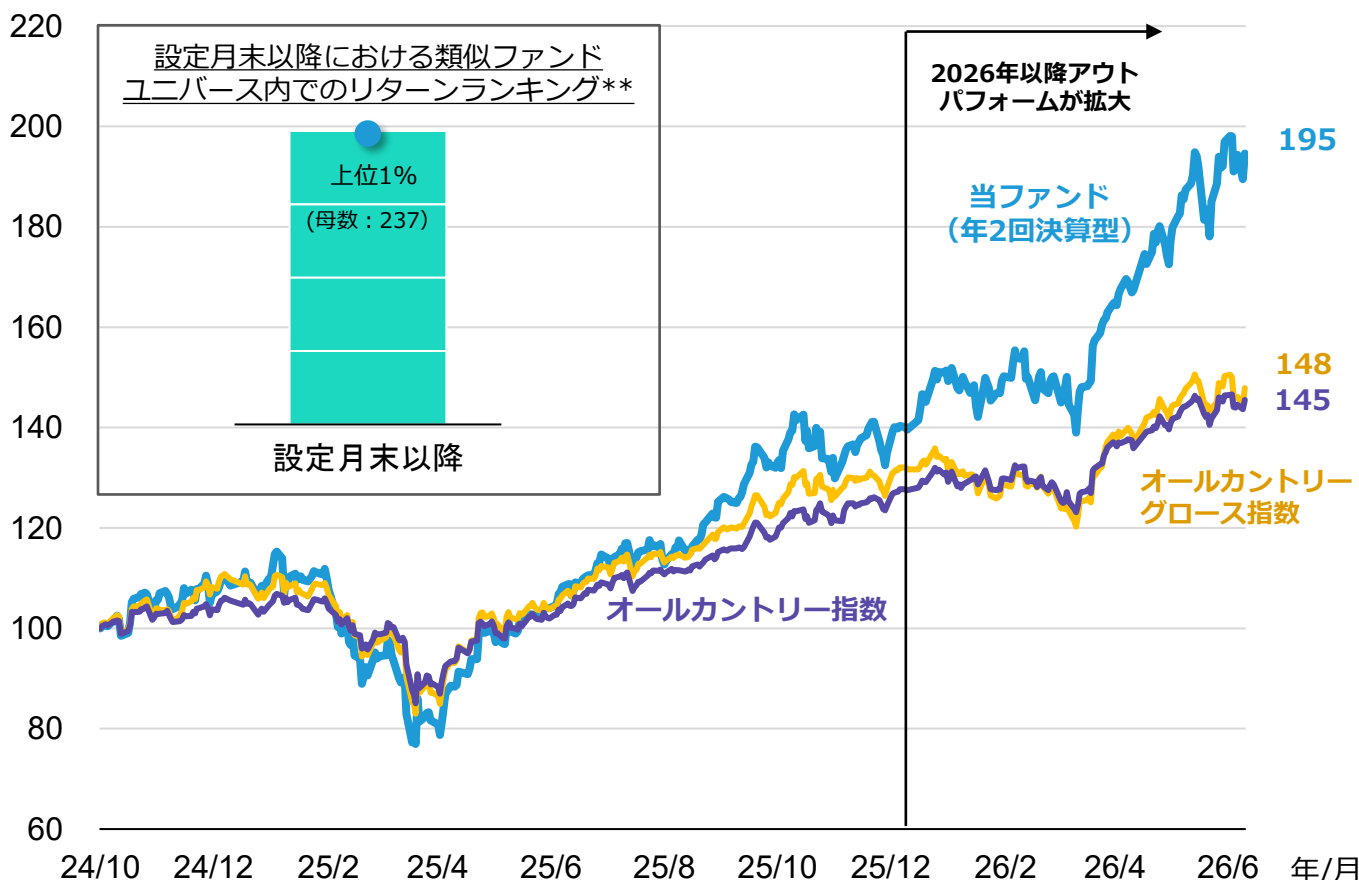
当ファンドのパフォーマンス

当ファンドの基準価額（課税前分配金再投資）は2024年10月21日の設定以降堅調に推移しており、オールカントリー・グロース指数やオールカントリー指数を大きく上回るリターンとなっています。また、類似の237ファンドとの比較においても、設定月末である2024年10月末以降のリターンランキングで上位1%（年2回決算型の実績）となっており、卓越したパフォーマンスを実現しています。



設定来で株式市場をアウトパフォームし、競合ファンド内でもトップクラスのパフォーマンス

当ファンド（年2回決算型）の設定来リターン*

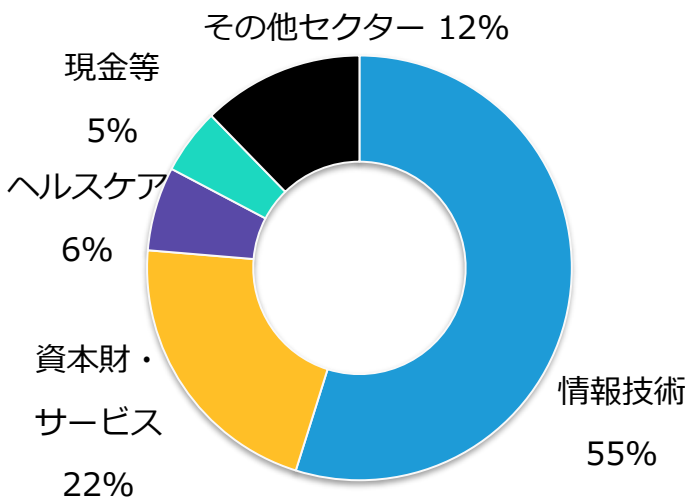


* 期間：2024年10月21日（年2回決算型および隔月決算・予想分配金提示型の設定日）～2026年6月30日、日次ベース、2024年10月21日を100として指数化。基準価額（課税前分配金再投資）をもとに算出。基準価額は、運用管理費用（信託報酬）控除後のものです。基準価額（課税前分配金再投資）は、課税前分配金を決算日の基準価額で全額再投資したと仮定した場合のパフォーマンスを示しています。税金、手数料等は考慮しておりませんので、投資家の皆様の実際の投資成果を示すものではありません。オールカントリー・グロース指数は、MSCI オール・カントリー・ワールド指数グロース、オールカントリー指数はMSCI オール・カントリー・ワールド指数。いずれも配当込み、円換算ベース、いずれも当ファンドのベンチマークではありません。** 2026年6月末時点。類似ファンドユニバースは、モーニングスターのカテゴリ「Japan Fund World Equity」に属する237ファンドが対象。出所：ブルームバーグ、モーニングスター、AB

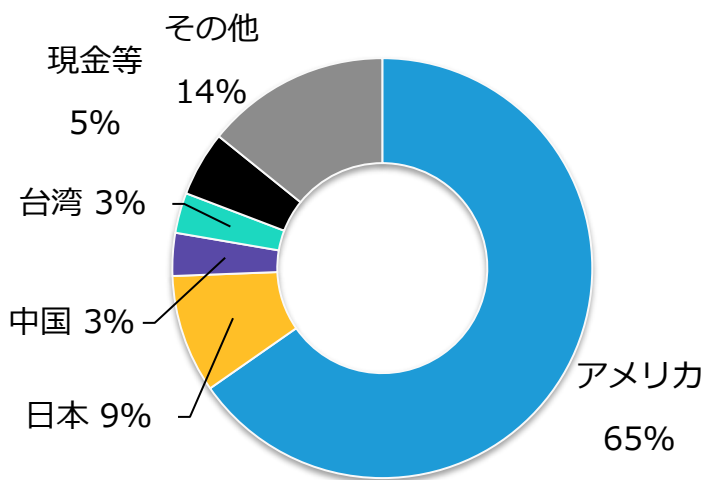
過去の実績や分析は将来の成果等を示唆・保証するものではありません。予想は今後変更される可能性があります。記載の個別の銘柄・企業については、あくまで説明のための例示であり、いかなる個別銘柄の売買等を推奨するものではありません。また組入れを示唆・保証するものではありません。

マザーファンドのポートフォリオの状況 (2026年6月末)

セクター別配分



国別配分



組入上位10銘柄

銘柄数：116銘柄

	銘柄名	セクター	国・地域	保有比率
1	アプライド・マテリアルズ	情報技術	米国	2.2%
2	アドバンスト・マイクロ・デバイセズ	情報技術	米国	2.1%
3	ラムリサーチ	情報技術	米国	2.0%
4	台湾セミコンダクター	情報技術	台湾	1.9%
5	エヌビディア	情報技術	米国	1.8%
6	スペース・エクスプロレーション・テクノロジーズ	コミュニケーション・サービス	米国	1.7%
7	ブロードコム	情報技術	米国	1.7%
8	KLA	情報技術	米国	1.6%
9	キャタピラー	資本財・サービス	米国	1.6%
10	アルファベット	コミュニケーション・サービス	米国	1.5%

マザーファンドはアライアンス・バーンスタイン・世界高成長株マザーファンド。セクターは、MSCI/S&PのGlobal Industry Classification Standard (GICS) の分類で区分しています。セクター別配分と国別配分は小数点第1位を四捨五入しています。組入比率は、対純資産総額の比率であり、小数点第2位を四捨五入しています。同一発行体で種類の異なる株式の比率は合算しています。構成比は四捨五入のため合計が100%とにならない場合があります。出所：AB

運用責任者が語る、AI革命はまだ初期段階—半導体の先へ広がる投資機会

当ファンドの分配方針

(年2回決算型)

原則として、毎決算時(毎年3月20日および9月20日。休業日の場合は翌営業日)に、以下の方針に基づき分配します。

- 分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、将来の収益分配金の支払いおよび金額について保証するものではなく、分配対象額が少額の場合等には、収益分配を行わないこともあります。

(隔月決算・予想分配金提示型)および(毎月決算・予想分配金提示型)

原則として、毎決算時((隔月決算・予想分配金提示型)コースは毎年1月、3月、5月、7月、9月、11月の各20日。(毎月決算・予想分配金提示型)コースは毎月20日(初回決算日:2026年7月21日)。いずれも休業日の場合は翌営業日)に以下の方針に基づき分配します。

- 計算期末の前営業日の基準価額に応じて、以下の金額の分配を目指します。

(隔月決算・予想分配金提示型)

毎計算期末の前営業日の基準価額	分配金額(1万口あたり、税引前)
11,000円未満	基準価額の水準等を勘案して決定
11,000円以上 12,000円未満	200円
12,000円以上 16,000円未満	300円
16,000円以上 20,000円未満	400円
20,000円以上	500円

(毎月決算・予想分配金提示型)

毎計算期末の前営業日の基準価額	分配金額(1万口あたり、税引前)
11,000円未満	基準価額の水準等を勘案して決定
11,000円以上 12,000円未満	200円
12,000円以上 13,000円未満	300円
13,000円以上	400円

- 分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、将来の収益分配金の支払いおよび金額について保証するものではなく、分配対象額が少額の場合等には、収益分配を行わないこともあります。

※ 毎計算期末の前営業日から当該計算期末までに基準価額が急激に変動した場合等、基準価額水準や市場動向等によっては、委託会社の判断で上記とは異なる分配金額となる場合や分配金が支払われない場合があります。

※ 基準価額に応じて、分配金額は変動します。基準価額が上記の一定水準に一度でも到達すれば、その水準に応じた分配を継続するというものではありません。

※ 分配金を支払うことにより基準価額は下落します。このため、基準価額に影響を与え、次期以降の分配金額は変動する場合があります。また、あらかじめ一定の分配金額を保証するものではありません。

当ファンドの主な投資リスク

当ファンドは、マザーファンドを通じて主として株式などの値動きのある金融商品等に投資しますので、組入れられた金融商品等の値動き(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)により基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。したがって、元金保証されているものではありません。当ファンドの運用による損益は全て投資者に帰属します。投資信託は預貯金と異なります。

基準価額の変動要因

株価変動リスク

経済・政治情勢や発行企業の業績等の影響で株価が変動し、損失を被るリスクがあります。

為替変動リスク

実質的な組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いませんので、基準価額は為替相場の変動の影響を受けます。

信用リスク

投資対象金融商品等の発行体が経営不安や倒産等に陥った場合に資金回収ができなくなるリスクや、それが予想される場合にその金融商品等の価格下落で損失を被るリスクがあります。また、金融商品等の取引相手方に債務不履行が生じた場合等には、損失を被るリスクがあります。

カントリー・リスク

発行国の政治・経済・社会情勢の変化で金融・証券市場が混乱し、金融商品等の価格が大きく変動する可能性があります。

他のベビーファンドの設定・解約等に伴う基準価額変動のリスク

当ファンドが投資対象とするマザーファンドを同じく投資対象とする他のベビーファンドでの設定・解約等に伴うマザーファンドでの組入金融商品等の売買等が生じた場合、当ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

運用責任者が語る、AI革命はまだ初期段階—半導体の先へ広がる投資機会

収益分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

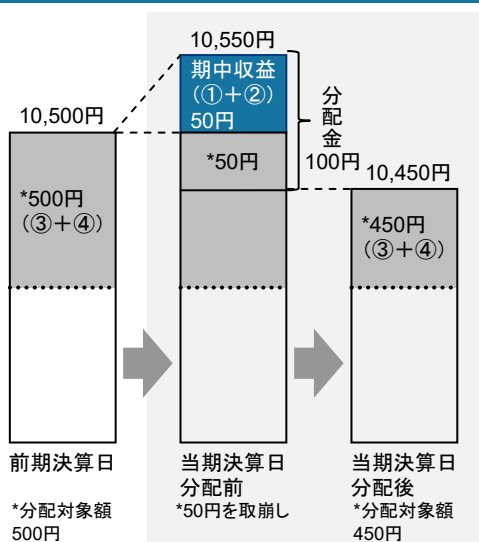
ファンドで分配金が
支払われるイメージ



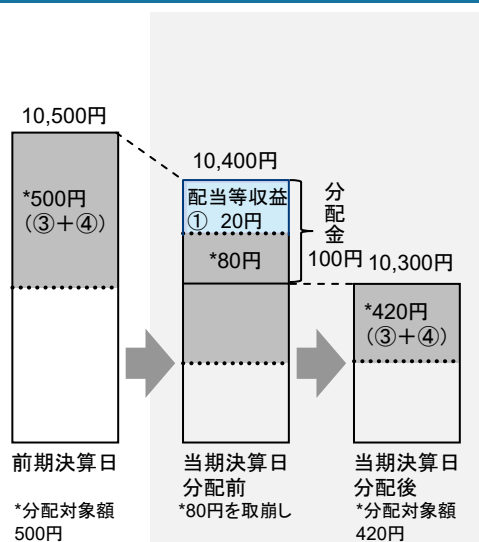
分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

（計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合）

（前期決算日から基準価額が上昇した場合）



（前期決算日から基準価額が下落した場合）



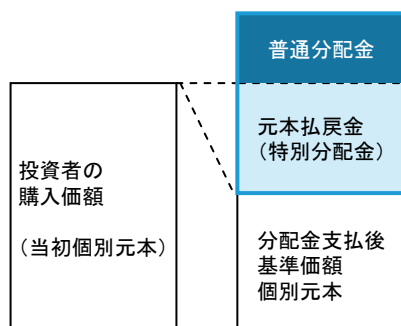
（注）分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

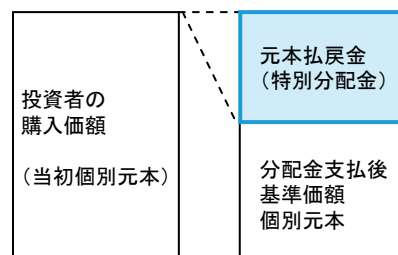
投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

（分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合）

（分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合）



※元本払戻金（特別分配金）は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金（特別分配金）部分は非課税扱いとなります。



普通分配金：個別元本（投資者のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金（特別分配金）：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

（注）普通分配金に対する課税については、投資信託説明書（交付目論見書）をご参照ください。

運用責任者が語る、AI革命はまだ初期段階—半導体の先へ広がる投資機会

当資料のご利用にあたっての留意事項

- 当ファンドは、マザーファンドを通じて主として株式などの値動きのある金融商品等に投資しますので、組み入れられた金融商品等の値動き（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）により基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。したがって、元金が保証されているものではありません。当ファンドの運用による損益は全て投資者に帰属します。投資信託は預貯金と異なります。
- 投資信託は預貯金や保険契約にはあたりませんので、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護対象ではありません。
- 登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 当資料は情報の提供を目的としてアライアンス・バーンスタイン株式会社が作成した販売用資料です。当資料は信頼できると判断した情報をもとに作成しておりますが、当社がその正確性・完全性を保証するものではありません。また、当資料に掲載されている予測、見通し、見解のいずれも実現される保証はありません。当資料の内容は予告なしに変更することがあります。当資料で使用している指数等に係る著作権等の知的財産権、その他一切の権利は、当該指数等の開発元または公表元に帰属します。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さかった場合も同様です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要性が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付けが中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社において投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめまたは同時にお渡ししますので、必ずお受取りになり、記載事項をご確認のうえ、投資の最終決定はご自身でご判断ください。

課税関係

個人の場合、原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時（スイッチングによる換金を含みます。）および償還時の譲渡益に対して課税されます。課税上は、株式投資信託として取り扱われます。公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。当ファンドの（年2回決算型）および（隔月決算・予想分配金提示型）は、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。（毎月決算・予想分配金提示型）は、NISAの対象ではありません。配当控除および益金不算入制度の適用はありません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。税法が改正された場合等には、内容が変更になる場合があります。

運用責任者が語る、AI革命はまだ初期段階—半導体の先へ広がる投資機会

お申込みメモ

購入および換金

ニューヨーク証券取引所の休業日には、購入および換金のお申込みはできません。

申込締切時間

原則、購入・換金のお申込みにかかる、販売会社所定の事務手続きが午後3時30分までに完了したものを当日の申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

購入単位

販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。

購入代金

販売会社が定める期日までにお支払いください。

換金単位

販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。

換金代金

原則、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

換金制限

信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みには制限を設ける場合があります。

お客様にご負担いただく費用

お客様には下記の費用の合計額をご負担いただきます。なお、下記の費用は、お客様が当ファンドを保有される期間等に応じて異なるものが含まれているため、合計額を表示することができません。

直接的にご負担いただく費用

購入時手数料 購入価額と購入口数を乗じて得た金額に、販売会社が別に定める購入時手数料率(3.3%(税抜3.0%)を上限とします。)を乗じて得た額とします。

信託財産留保額 ありません。

信託財産で間接的にご負担いただく費用

運用管理費用
(信託報酬)

純資産総額に対して年1.6797%(税抜年1.527%)の率を乗じて得た額とします。
※マザーファンドの投資顧問会社の報酬は、委託会社の受取る報酬の中から支払われます。
※ファンドの信託報酬は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のときに、信託財産中から支払われます。

その他の
費用・手数料

●金融商品等の売買委託手数料／外貨建資産の保管等に要する費用／信託財産に関する租税／信託事務の処理に要する諸費用等
※お客様の保有期間中その都度かかります。なお、これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を表示できません。
●監査費用／法定書類関係費用／計理業務関係費用／受益権の管理事務に係る費用等
※純資産総額に対して年0.1%(税込)の率を上限として、信託財産より間接的にご負担いただく場合があります(これらに該当する業務を委託する場合は、その委託費用を含みます。)。かかる諸費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のときに、信託財産中から委託会社に対して支払われます。

ファンドの主な関係法人

・委託会社
(ファンドの運用の指図を行う者)
・投資顧問会社
(マザーファンドの運用の一部の委託先)
・受託会社
(ファンドの財産の保管及び管理を行う者)

アライアンス・バーンスタイン株式会社 www.alliancebernstein.co.jp

アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー、アライアンス・バーンスタイン・リミテッド、
アライアンス・バーンスタイン・オーストラリア・リミテッド、
アライアンス・バーンスタイン・香港・リミテッド
野村信託銀行株式会社

■設定・運用は

アライアンス・バーンスタイン

【商号等】アライアンス・バーンスタイン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第303号
【加入協会】一般社団法人資産運用業協会／日本証券業協会／一般社団法人第二種金融商品取引業協会

運用責任者が語る、AI革命はまだ初期段階—半導体の先へ広がる投資機会

販売会社

販売会社は、受益権の募集・販売の取扱い、一部解約の実行の請求の受付け、収益分配金の再投資ならびに収益分配金、償還金、一部解約金の支払いの取扱い等を行います。

■投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者名		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融 商品取引業協会
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第67号	●	●		
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第15号	●	●	●	
株式会社SBI証券 ^{*1}	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	●	●	●	●
大和コネクト証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3186号	●			
南都まほろば証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第25号	●			
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	●		●	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	●	●	●	●
めぶき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1771号	●			
むさし証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第105号	●			●
楽天証券株式会社 ^{*1}	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	●	●	●	●

※取次会社も含めます。

※販売会社によっては、一部コースのみのお取扱いとなります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

^{*1} 上記のほかに、一般社団法人日本STO協会に加入しています。

(50音順)